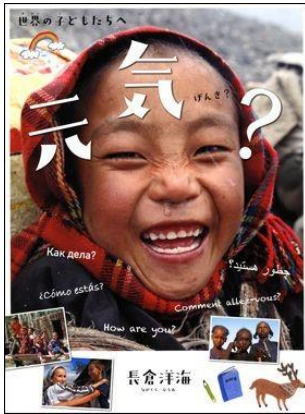


福井県優良図書

令和6年10月分

○元気？ 世界の子どもたちへ
長倉洋海 // 著
【小学校高学年～】



世界の紛争地や辺境の地を取材するカメラマンが、いろいろな土地で出会った子どもたちを紹介している本です。厳しい自然や内乱など、とても過酷な境遇の中で生活している子どもたちもたくさん出てきます。そういった中でも、楽しみを見つけて、たくましく生きている様子が、笑顔の写真と、温かい文章から伝わってきます。遠い国の子どもたちの笑顔を通じて、世界に関心が広がり、様々な問題を身近なものとして考えるきっかけになりそうな本です。

朝日新聞出版 ¥3,300 (税込み)

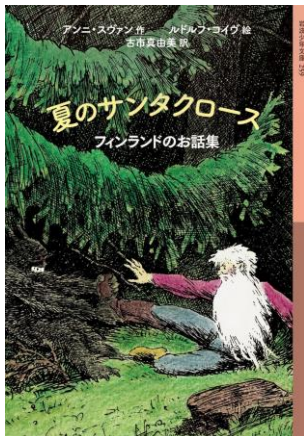
○アマゾンのふしぎな森へようこそ！
先住民の声に耳をすませば
南研子 // 著【小学校低学年～】



日本から2万キロ離れた南半球に位置するアマゾンの森の中。先住民たちの暮らす森には、地球上にいる生き物の半分以上の種類が生息しています。電気もガスも水道もない、お金は通用せず、文字もないけれど、感じる力を頼りに人びとは豊かな文化を受け継ぎます。しかし、今この森は、人間がつくりだす文明により、猛スピードで消滅が進んでいます。自分以外の人々、自然や生物に目を向け新たな考えをもち、自然、環境、地球について考え動き出すきっかけになったらいいなと思います。

合同出版 ¥1,980 (税込み)

○夏のサンタクロース フィンランドのお話集
アンニ・スヴァン // 作 ルドルフ・コイヴ // 絵
古市真由美 // 訳【小学校低学年～】



遠く離れた北欧フィンランドが舞台。自然に住む生き物やこびとたち、サンタクロースと子供たちのやり取りの場面は、心情に寄り添う言葉で紡がれ、お話の森に引き込まれていく。素直で頑張り屋の主人公たちは、苦難に直面しても、あきらめず挑み続ける。そして傍らには、優しく見守り、支えてくれる仲間や大人の存在がある。現代の子供たちが、この一冊に出会い、自らの未来に希望を抱き、可能性を見出すきっかけになったら願う。

岩波書店 ¥891 (税込み)

○名探偵ホームズが生まれた日
リンダ・ベイリー // 文 イザベル・フォラス // 絵
千葉茂樹 // 訳【小学校中学年～】



本書は、探偵小説「シャーロック・ホームズ」の作者、アーサー・コナン・ドイルの伝記絵本である。アーサーは、次々とホームズの物語を書き続けることが苦しく、ホームズを消すことにしたのだが…。仕事でも趣味でも様々な挑戦をした波乱万丈の人生だった。「人生はチャレンジ、やってみたことに無駄はない。」「想像力と好奇心は、創造を生む。」等々、ユーモラスな文と絵から、大人も子どもも、たくさんのことを感じられる本である。

光村教育図書 ¥1,870 (税込み)

○ひこうきにのろう
バイロン・バートン // さく
なかがわちひろ // やく【小学校低学年～】



飛行機に乗る時の空港や機内の様子が分かりやすく描かれています。シンプルな文章と鮮やかなイラストで、飛行機に乗るワクワク感が伝わってきます。初めて飛行機に乗る子どもたちに、親子で一緒に読んで、乗る前の予習として楽しんではいかがでしょうか。元が1982年の絵本で、描かれた設備など少々古く感じますが、数十年経った今も基本的なところは変わらないところが興味深い点でした。

好学社 ¥1,650 (税込み)

○わたしたちのケーキのわけかた
キム・ヒョウン // さく おおたけきよみ // やく
【小学校低学年～】



食事をする時に、食べ物を5人兄弟姉妹で分けることは難しい。物や時間、何でも5つに割る日々の生活の中で、アクシデントにより、独り占めできる嬉しさや、素敵な風景を見たり、おいしい物を食べた時、誰かのことを思い出したり、分け合いたいと思う家族の日常物語。形も味もまちまちの日々の小さな物語を、絵本に準じてわかりたいという作者の思いが伝わりとても愉快で、ほのぼの、ほんわか幸せな気持ちになる絵本です。

偕成社 ¥1,650 (税込み)

○人類の夢をかなえた飛行機の本
ヒサクニヒコ // 絵・文
【小学校中学年～】



子どもの未来社 ¥3,300 (税込み)

飛行機の進化には戦争と密な関係があり、戦争によって飛行機の性能が向上し、そのことが歴史の中で繰り返されてきた事実が時系列に描かれています。尊い命と引き換えに、飛行機が進化してきたという事実は読者の胸を熱くし、考えさせられるものがあります。

作者の知識と魅力的なイラストで描かれており、分かりやすい文章で、しかも総ルビなので小学生でも一気に読み進められると思います。

○海辺の村のパン屋

ポーラ・ホワイト // 作
いけださちこ // 訳 【小学校中学年～】



BL出版 ¥1,760 (税込み)

主人公のぼくは、りょうしになりたいと思っていたが、お父さんがパン屋であることに疑問を持ち、お父さんと話し合ったりする中で、パン屋の仕事の大切さに気づき、パン屋になって人々の役に立ちたいと思うようになる。

人々の生活と、はたらくことの結びつき、仕事の本当の意味を教えてくれる本である。挿絵も、イギリスらしい落ち着いた色使いで小さな村の情景をよく描いている。子どもたちに一度は手に取ってほしい一冊である。

○図書館のぬいぐるみかします

わたしのいるところ
シンシア・ロード // 作 ステファニー・グラエギン // 絵
田中奈津子 // 訳 【小学校中学年～】



ポプラ社 ¥1,430 (税込み)

アンが子どもの頃、誕生日にももらった人形、アイビー。アンが成長するにつれて一緒に遊ばなくなり、やがて箱に片付けられてしまいます。アンが大人になったある日、アイビーは箱から出され、本のように借りることのできる図書館のぬいぐるみ〈ブック・フレンド〉になり、物語が展開していきます。

登場する子ども達がぬいぐるみと出会い、ふれ合うことで、抱えている思いや悩みと向き合うきっかけとなり、成長していく心あたたまる物語です。ぬいぐるみを大事にしたいと思いますよ。

○ネコになりたかったクモのルイージ

ミシェル・ヌードセン // さく
ケビン・ホークス // え 福本友美子 // やく 【幼児～】



岩崎書店 ¥1,870 (税込み)

クモのルイージがネコになりたかったのは、ネコがほしかったベティおばさんのため。自分がクモと分かっていないおばさんのため、ルイージは好きなことも少し我慢して、一生懸命にネコのふりをします。でも実は…。ベティおばさんは、ルイージがクモなんだっていうことを、とっくにわかっていました。「お互いが相手のことを思いやる」気持ちはもちろんのこと、「自分は、ありのままの自分がいいんだね」という気持ちにも気づかせてくれる、そんな温かいストーリーです。